

ボロ市の名の由来

戦国時代に楽市として世田谷新宿に開かれた市は、徳川時代になって市町といふ名のもとに開かれていきましたが、後に農家の作業着のつくろいや、草鞋に編みこむボロが安く売られるようになって、いつとはなしにボロ市の名が生まれました。

こむボロが安く売られるようになって、いつとはなしにボロ市の名が生まれました。ことに草鞋をボロといっしょに編みこむと何倍も丈夫になるというので、農民は争って買いました。大部分の農家にとって農閑期の夜なべの草鞋作りは、大切な現金収入の副業だったのです。明治中頃までの市の最盛期には、ボロ専門の店が十数軒も出て、午前中にはほとんど売り切れになったといえます。もちろんボロ市といってもボロを売る店ばかりではなく、農具や日用品などの店が道の両側にとろせましと並んでお客をよびこんでいました。

昭和のはじめ頃から、見せ物小屋や芝居小屋も出店するようになりました。商品の売買と共に娯楽の場でもあり、親戚、知人の旧交をあたためる時でもありました。大正から昭和にかけて出店数は八、九百店から多いときは二千店にもなりました。しかし、近頃は交通量の増大と共に出店数は六、七百店に減り、場所もせまられました。商品も農耕具、古着などのボロ市的な特徴あるものは少なくなり、かわって玩具、装身具、植木類等が多く売られています。

古着類がわずかにボロ市の名を保っているといえるでしょう。



草鞋 わらじ



草履 ぞうり

東京都指定無形民俗文化財

世田谷のボロ市

交通のご案内



開催時期：12月15日・16日 1月15日・16日
 主催：せたがやボロ市保存会
 世田谷区世田谷1-23-5
 電話 03-3439-1108
 後援：世田谷区 世田谷総合支所地域振興課
 電話03-5432-3333 (せたがやコール)
 ◆駐車場はありません

掟

一市と日一ヶ月
 一日 六日 十日
 一押買後宿屋係り
 一團質の質を在る事
 一喧嘩口論を係り
 一備後一切を係り
 右の事市吏と知伴
 北条氏 掟書 (大場代官屋敷保存会所蔵)

ボロ市のはじまり

ボロ市のはじまりは、遠く四百四十年の昔に開かれた楽市にさかのぼります。当時関東地方を支配していた小田原城主北条氏政は、世田谷城主吉良氏朝の城下町である世田谷新宿に、天正六年(一五七八年)に楽市を開きました。楽市というのは、毎月一日と六の日に月六回開いていたので六斎市ともいいました。当時世田谷は江戸と小田原を結ぶ相州街道の重要な地点として栄えていました。この市により、これらの地方の物資の交流はますます活発になり、江戸と南関東を結ぶ中間市場としてかなり繁栄したであろうと思われまます。

ところがこのような賑わいも、北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされ、徳川家康が江戸に幕府を開くにおよんで急速に衰えていきました。世田谷城が廃止され、世田谷新宿が城下町としての存在意義を失い、楽市はなくなりましたが、その伝統は根強くつづけられ、近郷の農村の需要をみたす農具市・古着市・正月用品市として毎年十二月十五日に開かれる市の市として長く保たれたのです。明治の世になって新暦が使われてから正月十五日にも開かれ、やがて十二月十五、十六日の両日、正月にも十五、十六日両日開かれるようになり現在に至っています。

ボロ市 一日二十万人の賑わい

十二月十五日・十六日と一月十五日・十六日に開催されるボロ市は、一日二十万人の人出と言われています。



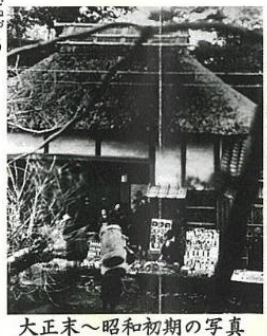
江戸時代から明治にかけて、出店のスペースは、筵一枚または戸板一枚分でした。店は、正月用品・日用品・農具が多く、野良着・綿いや草鞋の補強用のボロや古着の他に、荒物（火鉢・桶ざる類）・下駄・雪駄・鋤・釜・鉈・斧・鶴嘴・空樽・豆類・穀物等々を商っていました。他には、どぶろく・すし・駄菓子・おでん・煮染め。また色々の見世物や居合抜などもありました。

現代はボロや古着にかわって、掘出し物を安価に手に入れようとする客を相手に、洋品・雑貨・食料品・漬け物・古道具・陶器・うす・杵・骨董・植木の店などが並んで賑わっています。中でもボロ市名物の代官餅には毎年長い行列ができます。



※写真は一部世田谷区立郷土資料館所蔵

国指定重要文化財 代官屋敷



大正末～昭和初期の写真

棟造、建築面積は約二三〇㎡、玄関、役所、役所次の間、代官の居間、切腹の間、名主の詰所等があり、元文二年（一七三七年）に建て直された古い建物です。庭には罪人を取り調べたという白州跡があります。

代官の市町見廻り



市町の間一度、火の元警備と監督のために、代官は上下に威儀をととのえ、世田谷村名主、年寄以下人足などを従えて行列を組み、市場内を見廻って治安の維持にあたりました。この見廻りは『世田谷勤事録』巻七「市見廻り勤向」によると寛政七年（一七九五年）以前から実施されていました。見廻りの範囲は、上町開催の年は「下町境横宿への入口辺り」（現円光院前角）から「馬喰宿横町入口地蔵前又は仙蔵院先角」（現桜小学校）、下町の年は代官屋敷から「若林村百姓家前辺り」（現世田谷通り松陰神社入口辺り）まででした。

代官行列の図（市町代官見廻り）



代官行列

現在の市町見廻りは「代官行列」として行われています。昭和四十三年に「明治百年記念祭」として、昔を偲び、また、次世代に伝えるために行ったのが始まりで、現在では五年に一度行われています。地元の人々が当時を模した装束を身につけて再現しています。



徳川三代將軍家 光は、寛永十年（一六三三年）、

彦根藩主井伊直孝に世田谷領の一部を江戸屋敷の賄料として与えました。直孝は、旧領主である吉良氏の家臣で、吉良氏が滅びた後帰農していた大場市之丞を代官に用いました。以後大場家は明治維新にいたるまで二三十年間、代官をうけつぎ、この屋敷を住居兼役所として使用しました。屋敷は茅葺で寄